

第40回全国中学校バスケットボール大会 広島大会に出場して

旭川市立神居東中学校
女子バスケットボール部
監督 高島 伸彦

今年のチームの3年生は上級生が少なかったこともあり、1年生時から主力としてコートに立ってきました。1年生時の全道新人決戦大会で優勝し「全道制覇」というチームの目標が現実味を帯び、2年生として迎えた夏の札幌全道。準決勝まで進みあと1勝で全中というところで札幌清田中に敗れました。まさに下級生主体のチームが陥る一度リズムが崩れると立て直しがなかなか効かない状態で完敗しました……。コートに立たなかった3年生に申し訳ないことをしたという気持ちと、来年は絶対勝つという熱い想いのまざった多くの涙を流した時がこのチームのスタートでした。

そこから常に頭の中に「全道制覇」という目標を置き、誰からも応援されるチーム・選手を目指して生徒たちは必死になって取り組みました。目先の結果にとらわれず、どのような終わり方をするのかをイメージしながら夏を迎えました。

3年生にとって最後の全道大会。この大会を勝ちきるために生徒はそれぞれの立場で様々な貴重な経験をしてきました（都道府県対抗ジュニアオールスター、北海道ジュニアオールスター、道外遠征など）。程よい緊張感の中順調に勝ち進み、準決勝の教育大附属函館中に勝利し全中出場を決めました。当然ながら喜ぶ生徒は一人もいなく、次の決勝に気持ちは向かっていました。決勝の相手は帯広第一中学校。2年生時の札幌全道で1回戦で当たり勝たせていただきました。ご存じのようにその時はお互い下級生主体チーム。ゲーム後高島先生と「来年は決勝で！！」と約束をしました。私はこの約束を忘れた日はありません。常に目標として追いつけてきた高島先生との約束です。絶対に破るわけにはいきません。決勝戦の前、2人で約束を守れたことを喜び合い、健闘誓い合った時の感激はこれまた一生の思い出となると思います。

決勝戦。お互い手の内を知り尽くしていることもあり、ゲームは拮抗した展開で進んでいきました。しかし帯広第一⑥が怪我で出場時間を抑えていたことや④のファールトラブルもあり徐々にリードを広げ、3Q途中で15点のリードを奪いました。しかしここからがさすが帯広第一中です。④がファールアウトしたにも関わらず、⑤を中心とした力強いバスケットを展開。その勢いに神居東も浮き足立ち単純なミスを連発します。4Q途中5点差とされ、こちらのターンオーバーで相手ボールとなった時点でDFを2-2-1ゾーンにチェンジしました。これで相手のOFのリズムが崩れ逃げ切ることができ、目標としていた「全道制覇」を達成することができました。

その後3週間、現状に満足することなく更なる高い目標を設定し、生徒たちは暑い中必死に練習しました。今この時期にバスケットボールができる喜びを全身に感じながら生き生きと練習する生徒たちを見て、改めて全中に出場できることの喜びを感じました。

全中に向けてOF面ではオフボール時の動き、特にボールから一番遠いプレイヤーの適切な状況判断からのフラッシュ・カッティング・バックスクリーンの精度を上げること、視野の確保につながる力強いボール移動（特にリバウンド獲得時）、ゾーンアタックなどを重点的に取り組み、DF面ではオール&ハーフゾーンDFのレベルアップ、確実なリバウンドの獲得に重点を置きました。

札幌遠征では札幌山の手高校や札幌創成高校の胸を借り、今までの練習内容の定着度の確認及び強

い当たりや高さに対応するための感覚を学びました。旭川地区の各高校にも胸を借り、本番に向けて調整をしていきました。

また、非常に暑い夏でしたので、体調管理面についても非常に気を使いました。現地の様子（気温、湿度など）も各試合会場に直接問い合わせ情報を集めました。広島にはトレーナーとして理学療法士の先生にも帯同してもらい、戦う体制を整えました。

広島は想像を超える暑さでした。バスを降り試合会場に入るまでで汗だくになります。しかしそんな猛烈な暑さの中、駐車場係として働く地元中学生の姿を見ると「暑い！」なんて言ってもらえない私も生徒も感じました。

幸い公式練習会場や試合会場は空調設備が完備され北海道での試合と何ら変わることなく臨むことができました。

予選リーグ1戦目、相手は九州ブロック第2代表大分県南大分中学校です。レベルの高い九州ブロックを勝ち上がってきたチームであり、高身長で身体も強く、また脚力ある素晴らしいチームでした。特にペイントエリア付近のジャンプシュートの確率の高さや、DFのプレッシャーの強さは相当なものがありました。神居東もミートからドライブを仕掛けシュートまで行くのですが、高さのプレッシャーからことごとく外れます。一方南大分はOFRシュート・ミドルシュートと確実に得点を重ね、1Q 9-19という大きなリードを奪われました。この出だしが非常に大きく影響しました。2Qに入り神居東も落ち着きを取り戻し18-26の8点差で3Qを迎えました。ゲームを決める大切な3Q。南大分はプレスを仕掛けこちらがミスを重ねてしまい、一気に離されました。ハーフタイムの指示の中で、相手がゲームを決めるためにプレスをしてくる事は予想されたので、その時のダウンの仕方を確認したのですが、南大分の大きい選手の豊富な運動量や的確なポジショニングに神居東が戸惑い、また私の指示も甘く結局27-45という大差がつき3Qを終えました。この点差をひっくり返すために手を尽くすと主力選手に相当な負担がかかると考え、次のゲームに賭けることにし4Qは主力を休ませました。結局41-70で初戦を落としました。

予選リーグ2戦目、相手は近畿ブロック第2代表京都府西ノ京中学校です。お互いに初戦を落としており決勝トーナメント出場のためにはこのゲームを絶対に取らなければなりません。南大分中対西ノ京中戦を分析し、ポイントを守り西ノ京④の高い個人技をどう押さえるかに絞りました。1Q神居東⑥阪野のジャンプシュート・3Pでリズムをつかみ、15-9とリードしました。2Qに入り西ノ京のドライブからのシュートが決まりだし一進一退の展開となり25-24の1点リードで終了。この前半は狙い通り西ノ京④を神居東⑦秋月、⑤三塚がよく抑え、相手にリズムを与えずにきましたが、神居東もターンオーバーやシュートミスが多く流れをつかめない展開でした。3Qに入り神居東のオフェンスが機能し始め、⑦秋月のエルボーからのドライブなどで6点までリードを広げました。その後西ノ京④のOFRシュートなどで食い下がられましたが、37-32の5点リードで最終Qを迎えることになりました。4Qお互いに点を入れ合い離せませんでした。神居東が2-2-1プレスで流れをつかみ、⑤三塚、⑥阪野、⑦秋月の連続ゴールで一気に引き離しました。その後もフリースローを確実に決め51-38で勝利し、決勝トーナメントに駒を進めることができました。勝因としてDF面では神居東④伏見を中心とした確実なリバウンドの獲得、西ノ京④に最後まで気持ちよくプレーさせなかったこと、OF面では初戦では硬さから入らなかったアウトサイドシュートが本来の確率に戻ったこと、オフボールの動きが良くなりパスが効果的に回ったことが挙げられます。とにかくどんな形であれ勝たなければならないゲームに勝ち多少の安堵感を持ちながらすぐに宿舎に帰りました。

最低でも決勝トーナメント・・・と心に秘め全中に入り込んだこともあり、「さあ、ここからだ！」とチーム全体で気合いが入った状態で迎えた決勝トーナメント1回戦。相手はブロック1位であがってきた北信越ブロック第2代表新潟県山の下中学校です。予選リーグの戦いを見ると、身長はそれほ

ど高くはないですが2年生主体ながらどこからでも得点がとれる個人技の高いチームと伺えました。しかし十分勝てる相手であり1回戦を突破すれば準々決勝で南大分中と再度戦うことができるということで、生徒は気合い十分でコートに出て行きました。1Q山の下2-2-1プレスから2-1-2ゾーン、神居東はハーフマンツースタート。山の下多彩なOFに神居東DFがついて行けず、一時10点リードされましたが、終了間際に⑥阪野、⑧佐藤の連続ゴールで14-18の4点差まで追いつけることができました。2Qも山の下非常に高いシュート力に神居東が何とかついていく展開です。ドライブからダブルクラッチでシュートに持ち込むなど高い個人技に神居東のファールもかさみました。しかし苦しい時間帯に神居東⑧佐藤が3Pを決め、流れが山の下に行くことなく30-31で前半が終了しました。コートを出て人気のない所で、追いかける展開だがこちらの狙い通りのゲーム展開であること、相手のプレスにかかることなく確実にシュートまで行き高確率で決めている神居東のOFは間違っていないこと、勝負は最後の最後までわからない、だからこそリバウンド・ルーズボールを絶対に奪い続けることを確認しました。3Q開始早々神居東⑥阪野の3Pで逆転。幸先の良いスタートとなりました。常に神居東がリードする展開が続きましたが、しっかりと流れをつかむまではいきません。途中でDFを2-2-1プレスに変え流れをつかみかけましたが、要所要所で得点をとられ51-49の2点リードで最終Qを迎えました。勝負の4Q。DFをハーフマンツースに戻し、流れが来たら1-3-1プレスに変えることを生徒に伝えコートに送り出しました。どちらのチームもOF・DFともに足が良く動き厳しい展開が続く中、残り2分少々で59-60山の下1点リードとなりました。まだ2分以上あったためT・0を我慢し、取るべきタイミングを図りながら展開を見守りました。しかしゲームが止まりません。最後に止まったのが残り9秒の相手ボールスローイン。T・0を取りましたが、時すでに遅くタイムアップとなりました。敗因は間違いなく最後2分間のベンチワークです。私のクロスゲームを見通す甘さ、日頃の練習の詰めが最大の原因です。

生徒は北海道代表として本当に良く戦ってくれました。神居東のバスケットを全国の舞台で遺憾なく発揮してくれました。

ゲーム後は生徒にこんな悔しい思いをさせたことに大きな責任を感じながら泣き崩れる生徒を黙って見つめることしかできませんでした。本当に申し訳ないことをしました。

ただ、全中に向けて取り組んできたこと(バスケットボール以外の面も)は間違っていなかったと確信しています。生徒はそれを必死に表現しようとコートを走り回りました。その姿は大変立派でした。

私にとって3回目の全中。またしても非常に悔しい思いをしました。「全中で味わった悔しさは全中で晴らす！」この想いを胸に秘め、また夢の舞台に立つことを目指し頑張りたいと思います。

最後になりますが、広島全中出場にあたり、本当に多くの方々にお世話になりました。おかげさまで神居東中学校にとって忘れることのできない暑い夏となりました。道協会をはじめ、道Jr連盟、地区協会、地区Jr連盟の皆様本当にありがとうございました。練習ゲームを快く引き受けていただいた各高校の先生方本当にありがとうございました。すべての皆様に心から感謝し、報告とさせていただきます。